地方創生拠点整備交付金事業評価シート

項番	施策・事業内容						重要業績評価指標（KPI）						外部検討委員会	備考
	事業の名称	事業の概要	事業実績額(千円)	施設整備の内容	担当課	評価	指標	基準値	H29年度末実績値	H30年度末目標値	H30年度末実績値	5年後の目標値	評　価	
①	住民交流による地域活性化拠点整備事業	施設のある高城地区はみなべ町の山間部に位置し、かつてはこの高城公民館を中心に住民が集い、運動会や盆踊りなど地域の行事が盛んな地域であったが、人口の減少などにより地域交流の機会が少なくなっている。 そのような中、地域の女性グループが、住民等交流の復活のきっかけにと公民館を活用しボランティアによる介護予防サロン「ふれあい喫茶」を企画し、定期的な開催をはじめた。しかし、「ふれあい喫茶」として高齢者が利用するには、トイレ・空調等が利用しにくい状況となっているため、トイレ、調理室の厨房設備、空調設備、階段やローカなどを改修して、地域住民の小さな交流拠点として整備する。 また、本地域を県が進めている移住対策地域に追加されることから、本施設を相談者の窓口施設としても活用していく。 【実施予定事業】 介護予防サロン「ふれあい喫茶」、地域食材料理研究・料理教室、小学生通学合宿等	32,743	【調理室の改造】 地域交流のふれあい喫茶を開催するにあたり、現在の施設では不十分であることから、機能強化（利便性向上・衛生面）を図るため、調理台等の改造を行う。 また、高齢者の転倒時のけが防止のため喫茶室（大会議室）の床の張替等改修を行う。 【トイレの改修】 現在和式トイレであることから、高齢者が利用できるよう洋式に改修する。 【空調設備の改修】 ふれあい喫茶の喫茶室（大会議室）をはじめ、一部空調設備がない部屋があるため、全館の空調設備を改修する。 【階段、ロビー等の改修】 ２階の各部屋をサークル活動や喫茶室としても活用しているが、階段が急勾配のため、高齢者も安心して昇り降りできるよう改修し、また廊下へのスロープ設置、転倒時のけが防止のための床の張替等を行う。	教育学習課	B	①介護予防サロン「ふれあい喫茶」収入額	141千円	630千円	360千円	941千円	420千円	A	
							②高城地域の農業者所得	63,628千円	239,405千円	69,628千円	225,100千円	73,628千円		
							③介護予防サロン「ふれあい喫茶」来客数	470人	675人	1,200人	1,060人	1,400人		
②	ウミガメ保護活動拠点整備事業	みなべ町千里の浜は、日本でも有数のアカウミガメの産卵地として知られている。千里の浜では５月中旬から８月上旬の産卵シーズン中、ＮＰＯ団体と地元の有志が連携して、ボランティアで保護・調査活動を行っている。また、本州でウミガメの産卵観察ができる場所が希少なため、シーズン中に１千人を越える観察者（教育旅行の利用者など）が訪れている。 ボランティア調査員たちは、千里の浜に隣接する施設に常駐して活動を行っているが、老朽化が著しく危険なため使用できない部屋があることから、調査活動に支障をきたしている。また、週末には観察者が１００人を越えるときもあり、待機場所にも困る状況である。 そこで老朽化した現施設（調査基地・宿泊施設）を撤去し、調査員が滞在するための施設と、観察者が待機している間にパネルなどでウミガメについて学習できる施設とが一体となった複合施設（情報発信基地）を整備することにより、より一層の観察者を受け入れ、また、地元有志の方々も、より一層の保護・調査活動に取り込みを行い、人材の育成を図る。 【実施予定事業】 上陸産卵数調査の継続実施、調査ボランティアの育成、ウミガメ学習会の開催	80,403	拠点となっている施設は老朽化が激しく危険なため撤去し、調査・待機（仮眠）・学習機能をもった情報発信基地を改築する。 【情報発信基地改築】 ・調査基地の整備 現場調査員を統括し、現場からの情報を集約する本部を整備する。 ・待機（仮眠）施設の整備 産卵シーズン中、ウミガメ調査員や観察者が滞在するため、仮眠設備と調理設備を備える。 ・学習施設の整備 観察客が待機時間を利用してパネルなどでウミガメについて学習できる施設を整備する。 ・シャワー室の整備 ウミガメ調査や卵の保護活動など、長期間滞在するため、シャワー室やランドリースペースを整備する。	教育学習課	B	①環境保護協力金収入（@500円×人数）	0千円	0千円	690千円	18千円	770千円	A	
							②施設利用者数（ウミガメ産卵観察者数）	1,254人	1,242人	1,380人	1,409人	1,540人		
							③教育旅行の受け入れ人数	3,022人	3,030人	3,172人	3,082人	3,362人		

施策・事業内容の評価欄について

A：地方創生に非常に効果的であった（全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合）

B：地方創生に相当程度効果があった（一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合）

C：地方創生に効果があった（KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進し・改善したとみなせる場合）

D：地方創生に対して効果がなかった（KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合）

外部検討委員会の評価欄について

A：総合戦略のKPIの達成に有効であった

B：総合戦略のKPIの達成に有効とは言えない